

## ○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

若木町在住、牟田の一般質問を開始いたします。

先日、ある人にメールを出しました。出した相手はバラク・オバマさん、アメリカ合衆国大統領にうちのパソコンからメールを出しました。どういう内容をメールしたかといいますと、広島・長崎のオリンピック誘致、この件に関してホワイトハウスのオバマ大統領にメールを出しました。出した内容の言葉は「非核化を目指すオバマ大統領 広島・長崎オリンピック誘致運動にぜひエールを送ってほしい」というような内容を出しました。英語でももちろん出しました。そのオバマ大統領からの返事はありませんでした。これはもう当然といえば当然なんですけれども、広島市、長崎市の共同開催の誘致に手を挙げるということで、大変私は素晴らしいことだと思いましたが、もう1つ素晴らしいなと思ったのが、この武雄でそれを応援する会が発足したこと、これはもう本当におおっと思いましたが、素晴らしい。この運動に関しては、また後で市長にお伺いしたいと思いますけれども、実現すればもう大変なことだと思います。

例えば、大きな意義が3つあると思いますね。1つ目、非核化をこの九州から、そして広島から世界にアピールできること。2つ目、隣の県とはいえ、長崎、同じ九州でオリンピックが開かれる。若者から高齢者まで、本当に夢を持つことができる。で、3つ目、もしそれが実現すれば、この武雄にはかり知れない経済的影響が、効果があるということでもあります。これは大きな側面ではあります。なぜこのことを言ったかということ、私はきょう、武雄市の産業経済について質問するということで、この話を始めました。このはかり知れない武雄市への恩恵、まだ夢の段階ではありますけれども、そういう夢にすがりつかないかやいけなくらい今冷え込んでいるのではないかと。今、外はぼかぼかしています。12月なのにこんなぼかぼかしています。しかし寒い。経済は寒い。私の髪の毛も寒いですが、もっと寒い。本当に大変なことだと思います。

こうした武雄市内の経済対応、そして産業対応をどうすればいいのか、これはさきに高木議員が、先輩議員が質問もされました。大体通常のやり方として、どういうふうになればいいかというときに、まずは現状把握、調査ですね。そして分析、そして対策となります。この調査の実情はどうかと、なぜこういうふうに言うか。先日来、市長は公務員の給料削減に対して、公務員ばかりぬくぬくとしてはいけないというふうなことをおっしゃっています。そういうふうなのを市内のきちんとした状況を把握して、さらにそういうのをPRしていただきたい。PRという言葉はおかしいですけども、強く言ってほしいと、揺るがなく言っていただきたいと思っております。

先日の答弁では、武雄市はどのような景気状態にあるのかというときに、執行部からはハローワークのデータのみだったですかね、有効求人倍率、そういうことが出ました。そして、市長答弁の中でも唐津を参考にしたいと言われたと。ちょびつとがっかりであります。市は、

そういうふうな現状把握、一番対策に必要な現状把握をハローワークに頼っている。そして、唐津を参考にしたいといいますか、私は唐津じゃなくて武雄方式をやってほしい、ぜひ。唐津を参考にするんじゃない。例えば今、武雄って物すごく視察に来ていますよね。先進地だと思います。そういうふうな市内景気把握においても先進地にぜひなっていただきたい。これが武雄の樋渡市長の歩む道じゃないかと思います。ぜひその、まず第一歩目の現状分析に関して、第1問目の質問にしたいと思います。

今、市短観と入れると唐津市がだっと出ます。反対に市短観と入れれば武雄市がだっと来るぐらいやっていただきたいと思います。どういうふうにやっていくか、これを1つ目の質問。そして、ついでにさっき行政視察がが一つと来ていると言ったと。どれぐらい今視察に来ているのか、武雄に。この2点をまずはお伺いしたいと思います。

#### ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

さきの質問で、唐津市を参考にするというふうに答弁したら、これは結構一般質問だれも見よんさあですね。めちゃくちゃおしかりをいただきました。樋渡市長らしくないということをおっしゃいました。おっしゃられた方が多くて、もともと、じゃあ、短観は何なのかということをもう1回調べてみた場合に、日本銀行が四半期ごとに、1年に4回経済の先行き等に関する企業アンケート調査の結果をまとめたものであります。これは、物すごくシンプルで、ある企業さんが今の景気はよくなりますか、あるいは悪くなりますかということだけ聞かれますね。今、日銀短観が私の手元に本物があります。（資料を示す）これを見たときに、プラスが多くなるとよくなると、マイナスが多くなると悪くなると、ゼロに近づけば今と変わらないということで、これ今、日銀の短観は全国企業が大体4,230社、全国津々浦々の企業に日銀がペーパーで聞いているわけですね。それを短観として出しているということになっております。

私どもといたしましては、確かに御質問をいただいた後にちょっといろいろ調べたときに、肌感覚としての景気の指標がないということに気づかされていますので、まずちょっとできることからやろうということで、匿名で、例えば50社、製造業、農業、自動車、観光業を合わせて、その方々にちょっとペーパーでしていただくというと手間隙かかりますので、電話で聞こうということ、これから景気がよくなると思いますか、あるいは悪くなると思いますか、そういったことで、本当の意味での武雄市短観を出す、日銀短観といいますけど、武雄市短観、武短を出そうということで考えております。これこそが、多分日銀短観が物すごく世界に影響力があります。これを私どもが実際電話でアンケートをしてまとめて出すということについては、本当に意義があるものだというふうに認識をしております。これは行政にとっても、聞かれるほうにとっても、そんな手間隙のかかる話ではありません。相場感とし

ておっしゃっていただくことをまとめて出していききたいというふうに思っておりますので、早ければ、これは日銀短観に合わせて出していききたいと、次の日銀短観に合わせて出していく。対象事業者とかというのは、いきなりどんとやってもなかなかこれ不都合等があると思いますので、できることからやると。ですので、だんだんちょっと対象の企業、事業者、個人の方々はふえていくのかなというふうに認識しておりますけれども、本来の意味での短観は私たちが日本で最初にやろうと、こういうふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

行政視察でございますけれども、18年からことしの11月末現在で、延べで1,600人強の視察を受け入れさせていただいているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今、私がこの時期よく聞くのは、民間ではボーナスの出るぎよかほうと、あるだけよかばいというふうな声もよく聞きます。まず対策するには、そういうふうな現状把握の第一歩、そしてずっと進んでいっていただきたいと思えますし、今行政視察の件もありました。武雄市はそういう先進地だからいっぱい来ると、ぜひそういうふうな短観に関しても先進地になっていただきたい。先ほどボーナスの話をしましたけれども、それはサラリーマン、勤めている方だけではなくて経営している方、それをなりわいに行っている方、零細企業もそうです。お父さん、お母さんだけでされている方、従業員が1人しかいない、例えば、10人しかいない、そういうところでも経営しているほうも先行きがわからない、不安だという声をやっぱりいっぱい聞きます。

そういう中に、ちょうど約1年前ですね、自民党が解散する、解散すると言ってなかなかしなかった。そういうときに何でしなかったかという、大きな理由の大義名分の一つに経済対策が先だというのが理由の、これは真意はちょっとわかりませんが、経済対策が先だったということで言われております。そういう中で、今現在もいろんな補正がついていますが、これは4番議員もおっしゃられたように、前政権が大型補正でつけられていたものを再度復活させたという形になりますけれども、市も市内景気のために財政出動はできないのか、市もですね。市はお金がないとよく言います。確かに我々短期で1年間のことで見ていますけれども、じゃあ、それ以外のお金はあるのか、ないのか、これは埋蔵金とは違いますね、そういうふうな基金はどうなっているのか。

基金のほう、市の貯金は基金で合わせると、これは一般公営企業は別として約80億円、財

政調整基金、いわゆる財調といわれる分ですけれども、平成18年度末では13億4,000万円ありました。19年度末は17億4,000万円、これで一挙に4億円ふえていますね。20年度は19億2,000万円、本年度はちょっとわかりませんが、約20億円ぐらいの財調が年々ふえていっている、貯金。あと公共施設整備基金、これも18年には22億円あったと、20年度には23億円、ずっとふえていっている。地域福祉基金、これは利子、交付税ですけど、直接使えないんですけど、6億5,000万円もあると。そういうふうな基金が多々あります。

不安な22年度を武雄市内の企業が乗り切るために、何とかそういうのが使えないか、今こそ反対に使うべきときじゃないか。何百年に1回の大不況と言われていています。そういうときのために使うべきじゃないか、今、使うときじゃないか、それはまたさっき言った、判断してやっていただきたいと思いたすけれども、状況分析してやっていただきたいと思いたすけれども、年々ふえている基金、それはもう将来のためだとわかります。でも、いつ使うの、何か収支が足りないときにそれを補うだけなのか。今、100年に一度、150年に一度と言われるときこそ使うべきときじゃないか。それ全部崩せとは言いません。例えば、1億円取り崩したら、いろんな乗ったら3億円の事業ができます。2億取り崩したら6億円の事業があります。

今、小さい市単独で財政出動という言葉を使っている市は一つもありません。武雄市の企業は本当に青色吐息というんですかね、よその市も同じだと思います。しかし、武雄は違ふよと、執行部として、市政者として、私はこの武雄市の景気を少しでもよくするために、こういうふうにして、今、大切な基金を取り崩して、今に当たります、来年一緒に頑張りましょうというふうな形でやっていただきたいと思いたす。

合計80億円ですけれども、使えない基金もいっぱいある。しかし、さっき言った財調、そして公共施設整備基金、合わせると40億円以上あります。その中の1割使っても4億円、4億円使ったら、いろんな補助金乗せたら10億円以上の効果があらわれます。コンクリートから人へとは言いたすけれども、それは箱物をつくれということじゃないです。いろんな将来の武雄市のためになるように使っていただきたい、そういうふうにして市の財政出動、今まで全国にありません。小さい市もしたことありません。最初にそういうことをして、武雄市の市内業者、さっき言った大企業じゃないです。2人きり、従業員1人、5人、10人ぐらいの、そういうところを助けるために、そういう財政出動ができないか。それが体現できるかどうかは行革と右左合わせてやらなきゃいけないですけれども、そういうことができるかどうか、頭の隅っこにもそういう考えがあるかどうかを、市長にお伺いしたいと思いたす。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私もちょっと財政の世界には長くおりましたので、私が一番気にしているのは、実は市中

金利なんですね。お金を借りるときの金利は物すごく気にします。ですので、朝起きて一番早く見るのは日経新聞のその部分であります。今の武雄市の置かれている状況は、確かに議員さんがおっしゃるように、それだけの基金の積み立てがあります。これは、前の市長さん、前々の市長さんの本当にたゆまぬ努力で、それだけを積み重ねてきた、これは本当に私は評価をしたいというふうに思っております。

ただ、地方債の残高、これは私どもの借金になりますけれども、武雄市の財政規模が大体200億円です。市の借金、地方債残高で見た場合に233億円、現時点であります。そうしたときに、マーケットが何を見るかという、大丈夫かいなど、積み立てを取り崩したときに、この借金返済もきちんとやらなきゃいけないといったときに、そうなってくると、実際、地方債、あるいは発行した場合、あるいは借る場合に金利の上があるわけですね。これを私は一番危惧しております。これは、すなわち市民負担にもなりかねませんので、そういった全体の私どもが抱えておる、昔から積み立てられた借金、これはいい、悪いは別です。それを返さなきゃいけないということからして、その基金をどういうふうにするかということについては、借金とのバランスを考える必要があるだろうというのは考えております。

しかし、議員がさっきおっしゃったように、今、確かに使うべきときかもしれません。本当に私が地域回りをしていて、青色吐息どころか、もう本当にここで何とか手を打たないと、個人もさることながら、地域がもうずたずたに、あるいは企業がずたずたになるというのは私自身も肌で感じております。したがって、私としては、もし基金を取り崩すということであれば、これは議会によく相談をする話になりますが、基本的な方向として、例えば、下水道を含むとする、あるいは市町村の、広くいうと公共下水道関係、市町村型のものを含めて、そういう環境に資する、世の中の環境に資するもの、これは別に人からコンクリートという、そういう世界じゃありません。そういったものに使用する、あるいは今、本当に生活そのものが、これは19番の山口昌宏議員がおっしゃったように、老老介護の問題であるとか、本当にもうずたずたになるところに、例えば、直接、これは人件費になるかもしれません、そういった形ですと、それを幾分か出すということについてはあるのかなど。

ただ、先ほど申し上げたとおり、議員も御案内のとおり、基金については目的があります。目的がある。これはこういうふうに使わなきゃいけない、これはこういうふうに使わなきゃいけないということがあるので、それは壁があるということは、議員も御承知のとおりだと思いますけれども、いずれにしても、財政的なバランスと、そして使うべきときは本当に使わなければいけないということについては思っております。

非常にこれは難しい問題であります。一刀両断にやるとか、やれるとかという話ではありませんので、これはよく議会ときちんとかっぱり相談をして、そして次の世代に私たちは武雄市というのを残さないといけません。生活面にしても、財政的にしても、残さなきゃいけないと、夕張市みたいになってはなりません。千葉県の銚子市みたいになってはなりません。

ですので、そういうふうになんか考えるべきときかなというふうに思っております。ちょっと歯切れが悪くて申しわけないですけども、そのように考えております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

基金というのは、やっぱり万一のときのためにとっておかなきゃいけない。この後、合併特例債を返さなきゃいけないときとか、いろいろあると思います。そういう中でも、公共施設整備基金、これは福祉基金、先ほど市長がおっしゃった、19番議員の答弁のときに何とかしなきゃいけない、これはもう直接そのお金はさわれないかもしれませんが、今、民主党政権になっていろいろ変わっております。直接それがさわれるようになると、それを回すことができます。それだけ浮くことになります。

もう1つは、例えば、いろんな壁があると、いろんな壁があるのは確かにそのとおりだと思います。財政調整基金条例第6条第1項、経済事情の著しい変動等により云々というものもあります。やっぱり使うべきときはいつかというふうな形で考慮、先ほど言いました頭の隅っこに入れて、ああ、武雄におってよかったと、企業が、武雄におったけん助かったと、よその町とか、よその自治体はこがんとけよかったと言われるようなことを、まず一步を踏み出していただければと思います。

私自身、いつも質問をしている中、財政を、その財源をこうしたほうがいいんじゃないかと言いながら、気がけて質問しているつもりですけども、さきの質問で市長が財政について答弁されたときに、行政は夢を与えるのも仕事だと、それを体現できるようにするのも、その途中の努力だということがありました。さっき言いましたように、私自身、財源を絡めていつも言っているんですけども、きょうはちょっと夢みたいな話かもしれませんが、こうあったらいいなということを1つ、2つ言ってみたいと思います。

長野県の川上村、これは前この議会で名前が出たんですけども、川上村の1世帯当たりの農業所得は2,500万円、1世帯当たりで平均ですよ。多いところは1世帯当たり6,000万円の収入を得ているそうです。利益率も大変なものだそうです。嬭恋村に関してはもう御存じのとおりだと思います。そういうところはどうなっているのか。出生率がどんどんどんどん上がっているんですね。そして、経済がどんどん回って、その商店とかなんとかも発展していると。やっぱり農業というのは物すごく大切だなというふうに思いました。その地域活性化において、その農業の果たす役割、経済を動かす役割というのは大変なものだということを実感した次第です。

そしてもう1つ、これは実際私も足を運んでいったんですけども、静岡県天竜市、今、合併して浜松市の中に入ったんですかね。その中に、天竜市の熊というところがあります。

名前から聞いたらもう田舎のほうみたいな感じですね。浜松市から電車で30分、そこでおりてから車で1時間、それぐらいのところにあります。私が住んでいる若木町でさえ、武雄でおりたら30分かからないですね。それぐらいのところにあります。そこに水車の里というのがあるんですね、水車の里。水車の里というのがあって、そこで何をしているかという、そばを打っています。そばを打って、そのそば、そば粉じゃなくて、そば食べさせるんですね、そば粉ももちろん売っているんですけども。そこが、物すごく売れていると、物すごく売れて、何万食と売れているからどうしているかという、減反したところ、棚田にソバをつくっていただいていると、ソバをいっぱい。で、相場の倍以上で引き取っていると、そこが、売れるから。そしたら、減反でどンドンどンドンやっているところ、どンドンつくってやると、そういうふうな相乗効果というのもあります。ぜひそういうふうな農業に関してプラスになるようなことをやっていただきたい。それを担うのが、一つはレモングラスだったと思っております。

この後、こうしてほしいというのは、また後で言いますけれども、まず1つ目、レモングラスの収支はどうなっているのか、まずこれを1つ目の質問にしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

前田営業部長

**○前田営業部長〔登壇〕**

レモングラスの収支でございますけれども、20年度から本格的に栽培しまして、20年度産のレモングラスの販売の実績については、約1,500万円程度でございます。

それから、21年度、2年目ですけれども、これはまだ途中ですが、最終的には約2,500万円ぐらいと聞いておまして、まだどンドンもうかるような状況はございませんが、その中では加工する人、あるいは生産する人の雇用だとか、雇用について30人か40人程度あるということで、今のところは赤字にはなっていないというところでございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

実態面の評価は部長の答弁のとおりですが、これに加えて、レモングラスを媒介として、行政視察等における市内への経済効果が今のところ約1,000万円、そしてマスコミ報道による武雄市の宣伝効果、これイメージアップ効果も含めますけれども、計5,000万円の8,000万円程度をレモングラス効果と算出しております。なお、これは御参考までに、経済産業省のマーケティングアドバイザーによれば、費用対効果、これは公告も含めてでありますけれども、今のところ5億円というふうに出ております。

したがって、そのレモングラスはよく批判も確かにあります。何でレモングラスだけなんだとか、いろいろありますけれども、繰り返し申し上げておりますとおり、レモングラスと

いうのは私たちとしては一つのきっかけだと、レモングラスを一つのきっかけとして、イチゴだったり、チンゲンサイだったり、キュウリだったり、大豆だったり、米だったり、畜産だったり、牛乳だったり、さまざまなことをそういった武雄のブランド、そして販路に乗せていただくということで、言い出しっぺは私でありますので、そういった意味からすると、この3年間、一生懸命皆さんがやってこられて、思った以上の効果は上げられていると。

やはりもう1つ私が思うのは、この議会でレモングラスを宮本栄八議員を初めとしてよく取り上げていただきました。これが非常にいい宣伝効果にまたなっておりますので、議員の皆様方に心から感謝をしたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

レモングラスの効果というのは相当上がっていると、最低最悪でも赤字になっていない、これでもいいことなんですけれども、やっぱりさらなるものを期待するわけですね。さっき言いました川上村、1世帯当たりの所得が2,500万円、びっくりしますよね。ここになれということじゃないです。やっぱりそれに向けて努力して、農業者がそれで利益が出たと、よかったというふうになってほしい。これは前、ここでお願いしました。そうするためには、供給だけでなく需要も喚起しなきゃいけない。で、前ありました、例えばレモングラスは尿酸値を下げるのにいいかもしれないよと。これが今、大学かどこかで調査されているとは思いますが、その尿酸値を下げる効果があれば、例えば、私この前、入院して尿酸値よかったですよね。とりあえずそれは関係ないんですけれども、そういう方って、やっぱりそのとき話聞いたら山ほどいらっしゃるらしいんですよ。

そういうふうにして、需要が喚起できたら、そして、私が前からお願いしている花粉症の薬ですね、市長も花粉症でイラクサだったですかね、あれを飲まれているということなんですけれども、こんなちっちゃい瓶で1万円ですよ。そういうふうなことになれば、武雄産のレモングラス、引く手あまたになる。じゃあ、隣の農家も、うちもつくろうかと、じゃあ、隣もつくろうかというふうな形で、さらなるこれで需要を掘り起こす、こっちから仕掛けて掘り起こしていただきたいと思っております。その辺のところを市長に答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

おっしゃるとおりであります。私たちとしては、2つのことを考えています。1つは、具体例を申し上げますと、川登のお茶農家の方が、自分たちの緑茶とレモングラスをまぜて製品として売られている。それと、自分たちがつくったお茶を発酵させて紅茶にしたものを、

一定のレモングラスを入れて売られている。これは佐賀新聞なり、西日本新聞に大きく取り上げられましたけれども、レモングラスを活用として付加価値として入れることによって、自分たちの、実際精根込めてつくった物が売れていくと、これは何もそれだけに限らず、お茶だけに限らず、さまざまところに多分レモングラスを使って付加価値をつけて、それを実際、例えば、1,000円で売れるところを1,200円ぐらいで売っていくというようなことに今もうなっております。

これに加えて、もう1つ、議員からお話があったように、レモングラスはどういうものかというのは、今目下、九州大学、東京大学、大阪大学、そして熊本大学等、九州歯科大学で研究をされていますので、この研究の結果を踏まえて、例えば、新型インフルエンザに効く、あるいは花粉症に効く、あるいは尿酸値を下げますと、私どもの営業部長はレモングラスを毎日毎晩毎朝飲むことによって、大分痛風がとれてきたという生体実験もみずから行っておりますので、そういったことが今度医学的に数字として出せない、これは薬事法違反になってペーパーには載せられませんので、今、大学に研究をお願いしたり、自発的にやっていたらと。これが早ければ来年の2月には出ます。そうやってきたときに、レモングラスがこれこれに効くということを実際言えることになるし、書けることになりますので、それは大いに今期待をしております。

したがって、当初思ってもみなかったような効果が、やっぱりやってみるものですね。確かにいろんな方が批判的におっしゃいますけれども、武雄は佐賀のがばいばあちゃんとレモングラスだけじゃないということはおっしゃいますが、やっぱりやってみないと、それは出てこないと思います。ですので、私たちはやっぱりやったことに批判をするのではなくて、やっぱりやっていることを伸ばすと、そうなってくると、やっているうちにいろんな効果が出てくると、前田部長みたいな例も出てくる。ですので、そういうことが根づくような政策をしていきたいと、このように思っております。そのためには、私どもも含めて議会の皆さんたちのリーダーシップがぜひ必要なのかなというふうに認識をしております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

特に花粉症に効くとかなったら、これはもう莫大な需要が見込めて、その生産農家も物すごく利益が上がると思います。さっきお茶業者が出ましたけれども、そういう言葉じゃなくて、レモングラス業者という言葉が出るかもしれないですね。原料としてつくると、そういうふうな単独でできるというふうなことでやっていただきたいと。ぜひ市内の花粉で苦しんでいる方も助かるし、全国したら物すごいですよ。さっき言ったイラクサのこのカプセルはどこから来ているかと、アメリカから輸入しているんですね。国産でそういうのができると

なれば、それはもう莫大な需要が見込めて、武雄のレモングラスの生産農家も助かると思うんですけれども、再度答弁を願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

私も含めて、何人か生体実験を行っておりまして、私はひどい花粉症の持ち主なんです。レモングラスをまじめに飲んで、いろんな飲み方をしましたけれども、少なくとも去年おとし、私はほとんど花粉症は出ておりません。これはレモングラスに直結しているかどうかは別にしても、前田部長の多分3倍くらい僕は飲んでいまして、それでも出ておりませんし、それともう1つ、どうも医学的に実証されそうなのが、特定のがんに出てくるたんぱく質をどうも抑える効果がありそうだということは、私も報告を受けております。

それと、もう1つが、新型インフルエンザであります。新型インフルエンザの発症を抑える、あるいは伝播を抑える効果があるんじゃないかということで、今もう最終的に各大学が競って研究をされておりますので、その結果が私のところに届き次第にきちんと公表をしたいと思っておりますので、本当にそのレモングラスというのが、多分今までリラックスとか、そういう意味でとらえられたと思うんですけれども、本当に健康とか命に直結したものになりそうだということで予感をしておりますので、そういう意味でいうと、やはり早くやってよかったと、これは全国いろんなところでやっていたら、その効果というのは分散されますけれども、とにかく一点突破でやってきたからこそ、今こういう大学が私たちの事業に乗っていただき、これはハッピーファーマーズも頑張っておられますけれども、そういう、産官学が今後押しをする状況になっているというふうに思っておりますので、ぜひ牟田議員を初めとして、やっぱり飲んでいただいて、その効果を、紙に書くのはだめです、ブログに出すのはだめですけれども、とにかくおっしゃっていただくことが、またそれがレモングラスが広がる、今、口コミで広がる時代でありますので、ぜひその効果を期待したいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

この件で何回もやりとりするとは思わなかったんですけれども、さっき言った川上村というのはレタスなんですね。レタスでそうやって収入を、高原レタスです、その地域の気候をあわせて、よそが少ないときにぱっと出すというふうな形で、輸出もされています。孺恋村はキャベツでしたっけ、そういう形で地域性を選んで、そういう野菜をされております。

武雄も地域性、その武雄の気候性というのを、先ほどここで質問された小池先輩、農業の

プロフェッショナルですから、武雄の気候はどうなんですかと、例えば、さっき言った川上村とか婦恋村というのは高原で特殊な環境ありますと、武雄で何かそういうのが、ちょっとよそと違うのではないですかと聞いたら、「うーん、どうだろうかね。でも武雄は温泉があるからね」というようなことを、ちらっと言われたんですよね。そういう中で、あ、温泉だと、武雄は温泉、温泉の熱を利用して何かできないかと。

これはちょっと話外れますけど、さっき言いました、この後の夢のような話かもしれないですけども、観光で、武雄温泉といえば北部と南部の両温泉しかないんですね。そして、黒髪だったですっけ、湯布院、黒川、あの辺は温泉郷になっていますよね、温泉郷になっていると。ぜひ武雄も各地に温泉が出る温泉郷にならないかなと、そしてその周辺部にそういう温泉郷になって、その温泉の熱を利用してハウスとか、そしたらレモングラスもそういうふうに暖房代も要らないし、棚田にハウスができるんじゃないかと、そういうふうなことも考えられます。

そういうのがないかと思って、補助金のやつを探してみました。これは地域活性化マニュアルといって、結構厚い、補助金がほとんど書いてあるやつです。この中で、そういうのが当てはまるのがないかというのを探して、農業新需要創造対策交付金補助金、例えば、また別に新たな農業推奨する実用技術開発事業交付金とか、いっぱいあります。そういうのを利用して、例えば、各町1個ずつ温泉つくって、そこの温泉水を利用してハウスをするとか、いろんなやり方があると思います。そういうことによって、そのレモングラスにしても、冬も大丈夫になってくるんですね。これはさらに調べたところ、多久もちょっとやっていたけど、余り聞かないですよ。九州内というのは余り聞かないですよ。東北はよくやっています、寒いから。寒いから温泉の熱を利用しようというので、よくやっています。ところが、九州は余り聞かない。あと、鹿児島島の指宿が若干メロンをやっているというぐらいですけども、武雄はもしできたら、そういう補助金、さっき言った基金、そういうのを利用して各地に温泉を掘れば、温泉自体が名物、そして、その温泉の水を利用してハウスの重油代が浮くと、その棚田にあるハウスを見て、それも観光になるんじゃないかと、これはまあ、夢のような話なんですけれども、そういうやり方というものもあると思います。ぜひこういう夢のような話、そしてさっき言った基金のやつもできると思うんですけども、先ほどレモングラスのさらなる活性化も含めて、今言ったようなことはいかがでしょうか。

#### ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

非常に夢がある話だと思います。確かに、例えば、湯布院に行ったときに、町の至るところから、これ農水路かなと思っているとところから湯気が立ち上って、見ると確かにこれは温泉郷の雰囲気がある。これは長野県の温泉でも見たことがあります。

この答弁にちょっと入ります前に、先ほどちょっと申し上げればよかったんですが、レモングラスをきっかけとして、私は台湾に先月行ってまいりました。そのときに非常に関心があったのは、この議会でも答弁をいたしましたとおりイチゴでありましたけれども、もう1つは米でありました。特に日本のお米がこれからもう爆発的にふえていくと、何でですかと、台湾も米どころでしょうと聞いたら、いや、違うと、米の種類が全く違うと、御案内のとおり、台湾の米は、東南アジアの米は長い米でありますけれども、日本はどちらかというと丸い、ねばねばしていると。今、台湾の若い人たちがどっちが好みかという、小池議員と目が合いましたけれども、日本の丸い米のほうが非常に好みだと。これは1つ、和食ブームがあると。やはり和食にはあの長いばさばさした米は向かないということで、それとすしです、すし。すしにはやっぱり日本の米が合うということで、実は台湾、そして中国の方々が今注目しているのは米。ですので、確かに日本国内では小池議員がおっしゃるように米余りになっておりますけれども、そういった販路を、例えば台湾であるとか中国であるとか、今後ますます高所得化が進むタイであるとかマレーシアとか、そういったところに持っていくのが多分首長の仕事だと思います。これは古川知事を見習うべき話であって、ドバイではいろいろありましたが、例えば、台湾でJ-PONを出して、2年後には本当にもう佐賀産のミカンがもう席卷しています。だから、そういうふうにしていくことも大事なのかなと、だから、今あるものを、レモングラスをきっかけとして活用していくと、米とかイチゴとか、そういうことでやっていくというのがいいのかなと、やっていくこともいいのかなと思いました。

答弁に戻りますけれども、先ほどの温泉を活用した、これ、ちょっとコストを考えなきゃいけない。掘ったとき、もし出んぎ不毛地帯ですもんね。ですので、ちょっとそれはよくいろんな研究をされている方々と相談をして、その温泉の熱を農業に生かすということは、見た目にとっても環境にとっても非常にいいと思っておりますので、ぜひそういった補助金等を活用しながら進めていきたいなと思っております。やはり付加価値がないと、やっぱりもう売れません。だから、卵も温泉卵としたら売れるように、そういうふうぜひあるものを活用するというのは、温泉を活用するというのも一緒だと思いますので、ぜひ知恵を出していきたいと、このように思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

25番牟田議員

**○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕**

ぜひ武雄を武雄温泉郷にして、それプラス農業。先ほど市長がおっしゃった米の、やっぱり基幹は米ですよ。先ほど小池議員もおっしゃっていたように、米をもっと出して、農家のほうにプラスになるように、それプラス何かということやっていただきたいと思っております。

この質問に移ったときの当初に言いました。川上村、そして孺恋村は出生率が物すごくふえている。やっぱり農家が元気なところ、そして、地域の経済がいいところは出生率がふえ

て、村も元気になる、町も元気になると、ぜひその辺のところを調査して、さらに農業関係のほうで頑張っていたきたいと思います。多分そういう温泉水を利用するとかなんとかあったら、今、現政権の民主党さんもCO<sub>2</sub>削減何%ということで、目標を掲げていらっしゃるんで、こういった補助金とか、結構目玉で出てくるやもしれません。そういうのを利用して、例えば、若木も昔、若木温泉てありました。武内も今度できればそういうのでできるかもしれない、温泉群でPRすれば、新幹線が来たときに、今、南部と北部しかありません。そういうのを広げていっていただければ幸いですと思っています。

経済のところの次の部分、これからちょっと地域性を出していきたいと思います。

経済を活性化するには、その動脈が必要、動脈というのは道路であります。道路に関して、今事業仕分け等々があって、上田議員、いろいろ道路のことも言われました。ほかの議員もその道路のこと言われております。やっぱりそういう経済の動脈というのは道路であります。道路行政がいろいろ見直されていますけれども、国道498号線、伊万里から来る基幹道路であります。その基幹道路の498号線、事業仕分け等々いろいろあっている中、本当みんな心配しております。ある程度というか、一部買収も済んでおりまして、どうなるんだろうという心配しておりますので、その498号線、どうなるのか、これをお伺いしたいと思います。まずそれだけお願いします。

**○議長（杉原豊喜君）**

松尾まちづくり部長

**○松尾まちづくり部長〔登壇〕**

国道498号若木バイパスにつきましては、これ平成19年度から着手されており、今年度も予算5億円で事業されております。今年度用地、あるいは家屋移転交渉、これが進められております。また、用地買収が済んだところからは、畦畔工事が進んでおります。一部、ボックスの工事も今後発注するという状況でございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

25番牟田議員

**○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕**

やっぱり心配するわけですね。民主党さんの仕分けもそうです。例えば、地域のいろんな人が498号線要らんばい——地域というのは若木町じゃないですよ。498号要らんばい発言とか、いろいろそういう発言があって、それを公言されたりなんかしたら、やっぱり本当にどうなるんだ、地域としては心配なんです。ぜひそのまま推進して頑張っていていただきたいと思います。

次に、その498号線沿いの横にある工業団地、豊田合成が今度来るということで、先日若木町のほうにも報告がありまして、みんな喜んでるところです。そういう中で、地域雇用が大分出るということ言われているんですけども、先日、豊田合成の社長さんが市役所

に見えられたときに会談されたということなんですけれども、できればそういう中で地域雇用をお願いしますとか、あと、例えば、そういうふうな建物を建てる時、地域業者を使っただけでいいとは思いますが、その辺のところはいかがでしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

御指摘のとおりだと思います。私としては、豊田合成の松原会長さんがお見えになったときに、何人か工場長の方であるとか、いろんな方々がお見えになっておられましたけれども、ぜひ地元雇用をお願いしますということは、私からも担当部長からも伝えてあります。それは当然のことですので、そういった意味で、一つ言われたのは、そうなるべくと、それは相思相愛でいきたいと思います、どういうことかという、例えば、ちょっと失念をいたしましたけれども、ある県のある市では、発光ダイオードの町になっていると、さまざまなところが発光ダイオードに転化していているということですので、そういう意味で私たちも地元企業、豊田合成さん、地元企業であります。いろんなところに地元の企業のをきちんと使うと、僭越な言い方ですけども、活用するという、その後押しができないかどうか、今、目下事務方に検討をさせております。

いずれにしても、地元雇用が第一でありますので、それがさらに今後、私の仕事とすればふえるように、今、ありがたいことに300人という話を聞いております。松原会長がおっしゃるには、これは400人でも500人でもしたいということをおっしゃっておられますので、それが本当に実現に向けて、実現可能になるように、我々としても応援をしていきたいなど、このように思っております。

以上です。

**○議長（杉原豊喜君）**

25番牟田議員

**○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕**

ぜひそういうのが実現して、既に言っていたということですので安心しました。

あと、道路の話に戻りますけど、498号線の話に戻りますけれども、その工業団地、そういって300人、400人ふえる可能性がある、そして、今度工事が、何十億円規模の工事が始まる。武雄側から来たときの工業団地の入り口というのは、歩道もなければ信号もなければ横断の歩道もないわけですね。これはもう地域が、前、警察署に陳情しました。この役所にも陳情しております。それだけまたふえたら、せめて横断歩道、できれば信号機を、逆の意味で、せつかく来てくれた豊田合成さんとか、その他の企業さんが、そこで事故に遭ったり、何かあったら本当に申しわけないですし、何よりも地域の方々がそうやって危険なことがあったらいけない。その辺のところの進捗状況はどうなるか、これはもう毎年お願いし

ていることなんですけれども、御答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

御指摘の信号機設置については、毎年地元からの要望があります。そして、市としまして、毎年公安委員会のほう、これ公安委員会が設置の判断をしますので、公安委員会のほうに要望しているという状況です。ただ、なかなか信号機設置については、数が多くて順番がなかなか回ってこないというところでの返事だけしかいただいていないという状況です。今後、強くまた要望していくということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひ実現していただかないと、また次、もう1つつけていただきたいところがあるけど、そこができないと、またそこだけ先というのもいけませんから、ぜひ実現に向けて努力していただきたいと思います。

あともう1つ、これも地域性があるんですけれども、観光の面で、先日、執行部の方、そして新聞社の方と一緒に若木町の永野というところの風穴というところに、これが観光資源にならないかということで見に行きました。どのように皆さん感じられたかわかりませんが、私、2回目だったんですね、行ったのが。そういう中で、西日本新聞社さんが物すごく大きく取り上げていただいたんですね。あ、こんなに関心があったんだと、その後、私のところにもブログ載せたら、いろいろ連絡、メールが来て、どこにあるんだとか、知り合いから行ってみたいと、あと、NBCラジオ、スキッピーってNBCですかね、スキッピーさんから連絡あって取材に行きたいと、そこから生放送をしたいということで連絡あって、実際、そこで生放送もありました。ぜひそういうふうな、ちょっと出ただけで物すごく反響があると、こういうのも観光に利用できないかとは思うんですけれども、その辺のところの市の考えをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これが風穴（ふうけつ）というか、風穴（かざあな）というか、ちょっとさまざまな、どっちですかね、これ。（パネルを示す）

〔25番「地元は風穴（かざあな）」〕

風穴（かざあな）と呼ばれているもので、これ、入り口は確かに狭いんですけれども、入るとドームみたいになっておりまして、大体10畳ぐらいの場所に、高さが十二、三メートル

あります。ですので、この上がずっとぽっかり空洞になっているというもので、昔は養蚕農家、蚕、ここでしていたという歴史があって、これだけだとわかりにくいんですけども、これ西日本新聞の報道によると、私もそのとき一緒に行きましたけれども、取材のときは暑かったですね。外は30度だったんですけど、風穴（かざあな）に持ち込んだ温度計は17度から18度まで低下と、したがって、ここに入った瞬間にもう体感温度からすると、17度、18度どころかもっと冷え冷えとする、そして、ここから風がどんどん出ています。したがって、もう私の眼鏡も真っ白になるぐらい風が出ています。これは世界遺産級だと思います。こんなところを見ても、どこにもありません。何でこれから風が出ているかというのは、これはいろんな学説があって、出ておらないそうですので、これこそ本当のミステリーゾーンですので、ぜひこれは永野地区のお宝を飛び越して、これ日本のお宝になるぐらいのインパクトがあります。

ですので、ぜひ私たちとしては2つ、今方向を考えておりまして、地元の若木町の皆さんたちとどういうふうに整備をしていこうかということも考えなきゃいけない。そして、これ実際、わかりにくいところにもあります。したがって、これガイドさんを養成しながら連れていっていただくということで、ここをひとつ雇用の場にしたいと、だから、来た方からここはお金を取る価値は十分に私はあると思いますし、それをもって安全・安心な、例えば道路であるとか、さくであるとか、案内板であるとか、そういうふうになることはできるというふうに思っております。

それともう1つ、ぜひお酒をつくっておられる方々には、ここの中に入れていただいて、そうやってそれを付加価値つけて出すということも私はあり得ると思っております。それぐらい広いスペースでありますので、答弁が長くなりましたけれども、そのような整備と、最後に若木は3本の大楠の一角がありますし、あるいは川内のレモングラス畑であるとか、この永野の風穴（かざあな）であるとか、本当に若木町はもう自然の宝庫というふうになる。これを私たちとしては、10年がかりで、本当に地に足をつけた歴史をはぐくむという観点から整備を進めていく必要があるだろうというふうに思っております。私もこれを見てびっくりいたしましたので、そういった気持ちで整備を進めていきたいと、このように考えております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

本当、入り口からもやが出ているというんですか、常に、暑いときは。風が出ているんじゃないくて、下にドライアイスみたいにこう出ているんですね。近くに行ったら、その入り口から中でドライアイスば、よく歌手が出てくるとき、ドライアイスがありますよね、あれみ

たいな感じが出てきているんですね。近くに行けば風が来ると。もちろんコウモリもいます。

今、市長がおっしゃったように、お酒を置いたらどうかと言われましたけれども、これはもうかぎも何もないから、置いておいたら、次の月にはなくなっているんじゃないかなと思うんですけれども、こういうふうにやっぱりいろんないい要素があります。ぜひそういうのを生かしてまちづくりにつなげていきたいと思ひますし、欲を言えば、あと若木温泉ができればもっといいなど。

これは後で、後でというか、今後あれなんですけれども、この経済の最後のところなんですけれども、壇上で言いました広島・長崎オリンピック、これはもう実際手を挙げられるということでやられていますけれども、本当にこれ実現すれば、武雄市にとっても物すごい恩恵が出てくると思ひます。そういう中で、市のサポート体制はどうなっているのか。例えば、つい思っただけです。私、できたのも後で知っただけですね。もちろん誘われてもいません。内容はよくわかりませんが、よくわからないと、応援するあれなんですけれども、最初考えたのは、市長がリーダーシップとったのかなと思っただけですよ、やったのかなと。後で聞けばそうではないと、民間からこうやって自己発生的に出てきたと、私はすばらしいことだと思ひますけれども、この辺に対しての市長のお考え、そして今後のサポートの考えをお伺ひしたいと思ひます。

#### ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

これは、あくまでも民間主導でハイツの正木支配人さん、そして山内町の商工会の、今武雄市の商工会の木須さん、そして、これ北方の商工会の光武さん、この3人の方々が自然発生的に長崎と広島と結ぶのは武雄だと、武雄が新幹線を使って平和のかけ橋になるということで進めるということで、自然発生的に出てきたところであります。

私は、ちょうどそのときに九州市長会でありました。正木支配人さんから私の携帯に電話がありました。実は市長、こういうことを考えとおぼってんどうやろうかということをおっしゃられたので、これは私も市政を担当していますので、すぐ応援しますとか、応援できませんと、個人では応援しますということは申し上げて、そこに長崎市長が横にいらっしやいましたので、武雄ではこういう動きが出ていますと、長崎田上市長に伝えたら、これは本当にうれしいと、たたかれているときに、あのときちょうどたたかれておりました、たたかれているときに武雄のその恩情は非常に身に染みると、しかも日本で初めて民間だということで、もう長崎市長のあの喜びぶりは、いまだに私もうれしく思っております。

そういった意味で、いろんな呼びかけをされておられます。オリンピック隊の入隊であるとか、これたしか無料だったというふうに思っていますし、今度、総会を開催される予定で

あります。ちょっと日時は12月の末だそうですけども、長崎市長がそこにお見えになります。長崎市長がお見えになって、オリンピック隊の総会を行うということですので、ぜひ市民の皆さん、そして議会の皆さんもお越しいただければ、本当にまた盛り上がるだろうというふうに思っております。

今、私がオリンピック隊から伺っている中身を1つだけ申し上げますと、ぜひ聖火リレーをしたいと、聖火リレー、飛龍窯でたいた光を、2月14日前後にたくと思っておりますけれども、その火かどうかわかりませんが、それを有志で長崎市の平和公園まで持っていくということでもあります。これは、これをやること自体が、恐らく物すごくまたマスコミ、国民の皆さんたちに注目を集めていると思っておりますので、ぜひ牟田副議長さんも御参加を賜ればありがたいと思っておりますし、そういった意味で市民の皆さんたちの温かい応援をお願いしているところであります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

聖火リレーは、僕はちょっと厳しいです。そうやって、やっぱり私はさっき壇上で言ったように、はかり知れない経済効果があると思えます。もちろん夢を与えるというのもそうですけれども、武雄の経済にプラスになるように、まだ夢の段階でありますけれども、さっき壇上で言いました、私がオバマ大統領にメールを出したのも、夢の実現の小さな小さな0.1ミリぐらい、1ミクロンぐらいの一步かもしれませんが、ぜひそれに向けて頑張って実現すればよかったと、これは武雄の経済にはかり知れない効果があると思えますので、ぜひ頑張ってくださいと思います。

それでは、次の質問の市長の政治姿勢についてをお伺いしたいと思います。

ちょうど3年ちょっと前ですかね、市長と企業誘致の出張に新幹線で行ってありました。そのときにふと思い出したことがあって、ことしというか、来年ワールドカップの年ですよね、サッカーのワールドカップ。その中で隣に座っている市長に、前、議会の一般質問で前の市長さんに競輪場でワールドカップのパブリックビューイングができないかということ質問したら、それはできないというふうに言われたと、樋渡市長はどう思うと聞いたら、市長はやりましょうと、ここからスタートしたと思えます。当時は、私の質問の答弁の中では、これこれこういうことでできない、できない、できない理由の羅列でした。ところが、市長はできると、やろうということで、これを実現し、来年もワールドカップの年ですね。実際、早いと思うんですけども、そういうふうな、やるという姿勢をぜひ見せていただきたいということで、そのワールドカップに関しても今後それをどうするのかというのを質問の1つと、もう1つは、そういうことで若者、サッカー好き、スポーツ好きに夢を

与えていただいたということです。夢を与えていただいた。市長の政治姿勢のところ、そのサッカーなどで夢を与えていただいて、ことしサッカーをどうするのかというと同様に、先日、武雄公民館とかいろんな武雄の中心街に関しての質問が出ていました。市長の政治姿勢として、ぜひ伺いして、この質問を終わりたいんですけども、周辺部のことをどれぐらい、周辺部というのは山内町、北方町だけではなく、旧武雄市の周辺部の町もあります。周辺部のことをどういうふうに思われているか、この2点を私の質問の最後にしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

さまざまな方が私が市長になってからの最初の仕事を見てもらうときに言われるのが、このサッカーの競輪場におけるパブリックビューイングなんですね。牟田副議長と大阪に出張して帰るときに、新幹線の中で副議長さんからそういうアドバイスをいただいた。私が直ちに担当に電話をしたということがスタート点になって、まさかあの時間帯で1,800人お集まりになるとは夢にも思わず、ああ、武雄というのはやればできるんだということを痛切に思いました。それまでは、実はやっても市長さん、そが来んばいと、して来んぎ市長の恥になあばいとというのは、結構言われました。しかし、やっぱりやらんばわかんもんねということとやってみたら、そこから恐らくあのパブリックビューイングが大成功になって、樋渡市政に勢いがついたと思っております。その成功体験があったからこそ、やればできる、ドラマ「佐賀のがばいばあちゃん」の誘致であったり、あるいはレモングラス、イノシシ、いろんなところにいい意味での波及効果があったということ、そして、やってみなければわからないということ、それが今、全国から注目をされている、そして全国から数多くの観光客の皆さん、視察の皆さんが来ておられる証左ではないかと思えます。

そういった意味で、私はこのパブリックビューイングというのは、そういうスポーツ面のみならず、そういう武雄市民の心の面から、あるいは盛り上がりという意味からぜひやりたいと思っております。これ、やります。ただ、場所をどうするかと、競輪場がいいのか、例えば、黒髪、乳待坊の周辺がいいのか、さまざまいろんなところがあるかと思えます。そして、今は大スクリーンが4年前と比べてみてもかなり大きいのが安くできておりますので、ぜひこれ、多くの市民の皆さんたちがケーブルワンを通じてごらんになられておられますので、ここでやりたいということがあれば、私たちにまた教えていただければ、まだ場所は決めておりませんので、やりたいと。サッカー頑張れ、日本頑張れという声を、武雄の元気な声を届けていきたいというふうに思っております。

そして、次のその周辺部のいろんな対応でありますけれども、私も周辺部の出身でありま

す。周辺部の悲哀であるとか、喜びであるとか、悲しみというのは生まれたときから高校を卒業するまで、私もいろんなことを感じてまいりました。そういった中ですと、私はやはり中心部と周辺部というのはバランスがとれなければだめだと思っています。しかし、例えば、若木町と武内町と、例えば山内町の船の原と同じことをじゃあしていいのかということ、そこはそれぞれ、土徳、土の徳が違いますので、そういう土徳に応じた政策を進める必要があるだろうと思っています。

ですので、ぜひ、今までともすれば道路ばすっぎよかろうもんとか、あるいはこういう農業施設ばつくうぎんたよかろうもんとか、こういう河川改修ばすっぎよかろうもんというふうに、今までの例えば市政というのは、オールジャパンで見ても、ハードに特化したようなものでありましたけれども、ぜひ私は心のこもった市民目線、周辺部の住民目線に沿った市政を進めていきたいと思っていますので、ちょっと長くなりますけれども、きのう、武内町で古川盛義議員さんのお取り計らいもあって、集会を行いました。そのときに出てきたのは、農道を、私も物すごく意外な発想だったんですけど、やっぱり県道に歩道をつけるのはちょっと厳しいじゃないかということ、したがって、農道を少し広げるだけで、そこを通学路にできないかと、これが市長、できる理由じゃないかと、できない理由じゃなく、できる理由じゃないかという、非常に目からうろこのような御提言もいただきましたので、早速きょう、これを持って、実は昼休みのときに武雄土木所長に行きました。そうすると、これは非常に、あつということでありましたので、ぜひその現場ですよね、現場の目線をちゃんと吸収をして、それを政策につなげていく、これは議会の皆さんたちのお力もぜひ必要でありますので、そういう温かい市政を進めてまいりたいと、二項対立じゃなくて一致団結、温かい市政を進めていきたいと、このように思っております。

#### ○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

#### ○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

サッカーの件は4年前、よく思い出されます。ぜひ実現して行って夢を与えていただきたいですし、周辺部に関しても、今民主党政権になってよく聞くのが、B/C、費用対効果と、それは道路も田舎は少ないですよ、通る数が。そしたら、もう道路、町しかできんじやなかですか。でも、例えば、うちの町、小さいながらも広い国土、市の土地を保全している、そうやって守っていると、そういう中で、やっぱり地域に合ったそういう実情、実情でぜひ市の力をかして行って、中心部とともに同じく発展していきたいと思えます。

これは、これもくどくなるかもしれませんが、昔、周辺部にはお店がたくさんありました。皆様方がちっちゃいころ、お店いっぱいあったと思います、駄菓子屋から何から。ほとんどなくなって、今、武雄、中心部になっているんですけども、そういうふうな片方が伸びるばかりじゃなくて、均衡ある発展をぜひお願いいたしまして、私の一般質問とさ

せていただきます。

終わります。